

長尾クリニックを承継

500人に在宅医療提供

在宅医療に積極的な医師・医療機関は多いが、兵庫県尼崎市を拠点に活動していた長尾和宏医師はその中でも知名度の高い一人といえるだろう。その長尾氏が医療現場をリタイアした2022年以降、院長としてクリニックの舵取りをしているのが豊國剛大医師だ。現在力を入れていることなどについてインタビューした。

医療法人社団西日本平郁会

3法人が統合し 診療所名も変更

尾和宏先生が開業しました。私は2016年に入職しています。22年に長尾先生が65歳になつたのを機にリタイアしたため、私が院長として医療法人社団西日本平郁会に就任しました。24年には3つの法人が統合して医療法人社団西日本平郁会となりました。



三和クリニック
豊國剛大院長

クリニックの歴史について教えてください。1995年に長

本平郁会となりました。クリニックの名称も「三和クリニック」に変更しましたが、スタッフは長尾クリニック時代から変わっていません。

現在の在宅患者数は豊國 高齢者住宅の入居者が約220人、それ以外の在宅高齢者が約280人です。年間で120〜160件程度の看取りを行っています。ほかの在宅医療ク

リニックと比較して特徴や強みは、豊國 医療と介護の連携がスムーズな点が挙げられます。クリニックの中に居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションが併設されています。訪問看護ステーションでは訪問リハビリテーションも提供しています。

継いで新たに始めたこと、力を入れていることはありますか。豊國 自前ケアマネを抱えています。要望があれば、現在訪問していません。高齢者住宅で行うことも検討しています。

10月11・12日
フォーラム開催

大阪で開催される在宅ケアに関するイベントの大会長を務める豊國 地域へ在宅医療を普及させる活動の一環として、10月11・12日の2日間、新大阪駅

「ホスピス・在宅ケア大会」大会長も

現在、3ヵ月に1回のペースでケアマネ・訪問看護師を対象にACPなどを学ぶ勉強会を開催しています。また、訪問している高

供しています。実際に介護を必要とする患者の大半が法人内のケアマネジャーを利用して

現在、3ヵ月に1回のペースでケアマネ・訪問看護師を対象にACPなどを学ぶ勉強会を開催しています。また、訪問している高

大阪で開催される在宅ケアに関するイベントの大会長を務める豊國 地域へ在宅医療を普及させる活動の一環として、10月11・12日の2日間、新大阪駅

前回の大阪コロナホテルで開催される「第32回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会」に「なな」の大会長を務めます。「在宅医療の今までとこれから」三終末期のリハビリはどうあるべきか」「世界から在宅ホスピスを学ぶ」などさまざまな講演・シンポジウムなどを開催します。

事前参加申し込みは9月15日まで受け付けています。また、12日の午後には参加無料の市民公開講座「在宅医療推進フォーラム in 大阪・兵庫」も同じホテル内で行われます。

今大会の特徴は豊國 昨年、いわゆる「ホスピス住宅」の不正請求問題があり在宅医療や訪問看護のあり方が大きく問われました。それを受け、単に「ホスピス・在宅医療は素晴らしい」とアピールするだけでなく、その「影」の部分にもスポットを当て、今後のあるべき姿を考えるセッションも設けました。

登壇者に会場内でしかできない話をしてもらうため、イベントはオンライン配信などは行わないことにしました。ぜひ、会場に足を運んでもらいたいと思います。